

令和元年度 校内研修 成果と課題

<p>個人の成果</p>	<ul style="list-style-type: none">• PBLの基本的な流れを知れた• 教師が期待していた以上の成果物が児童から生まれた• 計画立てや、プレゼンテーションの仕方において成果が見られた• 自らの担当教科にPBLを取り入れることの困難さを感じた• 限られた時数の中で指導内容とPBLの両立を試行錯誤した• PBLが学習意欲に繋がる（他教科においても）• 教師が単元のねらいを明確にもっていないといけないと感じた• 児童にとって身近な課題を取り上げる重要性を感じた 教材研究の大切さを実感した• 総合など大きな1年間の大きな単元に取り組む際には、『課題』が大切と気付いた(児童にとって本気で解決したい、達成したい課題となっているか)• 外部との連携が図れた <div data-bbox="368 712 1453 1104" style="border: 1px solid black; background-color: #e1f5fe; padding: 10px; text-align: center;"><h3>総括</h3><p>PBL型学習が児童の<u>学習意欲向上</u>に繋がることを実感し、『ねらい』の重要性に気付いた。授業として指導事項に則った明確な”ねらい”となっているか、PBL学習の設定として、児童の“本気で解決したい、達成したいねらい”となっているか。</p></div>
<p>学校としての成果</p>	<ul style="list-style-type: none">• PBLへの理解が深まった• どの教科、単元が適しているかを検討できた• 知識のつめこみに終始せず、ALの実現にむけ創意工夫できた• 低学年段階から問題解決する学習の経験を積むことができた• 目的意識をもったわくわくする授業が増えた• 児童主体が増えたことで、良い意味で教師主導の授業がつまらなく感じるようになった• 研究授業を参観する際の『視点』が明確になった• 『身近な課題』が校内にはたくさんあることに気付いた• 外部とのコネクションができた <div data-bbox="357 1666 1442 2058" style="border: 1px solid black; background-color: #ffe0b2; padding: 10px; text-align: center;"><h3>総括</h3><p>PBL型学習の実践例を多く積んだことで、学校全体での理解が深まった。また、児童も教師も通常の授業とPBL型授業の違いを実感し、これらがどのような教科、単元に適しているかも検討することができた。 小中合同で、児童が身に付ける力を示したループリックを作成したことで、授業を作る際、観る際の『視点』が明確となった。</p></div>

次年度への

課題

- ・ **教科の目標とPBLにおける能力育成の両立**
→手段に傾倒しすぎて教育の本質を見失わないように…
若手の先生方は、手段方法と共に教科の本質を伝える技術を学ぶべき
- ・ **児童の実態、学校の実態によって日々変化する『課題』への対応**
→PBLの実践をどしどし増やす！
- ・ **社会へのアウトプットについて（産官学連携の適切な在り方）**
→インプットとアウトプットの整合性を図る
なぜ、その企業、その人、その施設に発信する必要があるのかを明確に
- ・ **小中学校における連携（縦の繋がりのもち方）**
→（案）部会を教科ごとに設定する
（例）国語・外国語部 算数・理科部 生活科・社会
体育・音楽・家庭科・技術部 総合・学活
- ・ **PBLにおける教師の役割**
→ファシリテーション力の向上（講義・ワークショップ）
- ・ **PBL学習における育成能力の評価について**
→①今年度作成のルーブリックを各単元の内容に合わせて作成
②児童がインプットできる児童用ルーブリックの作成（集積）
- ・ **限られた『環境』・『時数』におけるPBLの実践**
→（案）学年で一つの部会を担当する
ひとり1実践をベースに、部会ごとに1研究授業（小中9本）
- ・ **思考、表現ツールの管理**
→ロイロノート、思考ツール、PowerPoint等のツールについて発達段階ごとに整理

R2年度 校内研修の取組み【重点】

- ①校内の研修体制を整備
- ②教科の目標とPBLにおける能力育成の両立
- ③PBLにおける教師の役割
- ④PBL学習における育成能力の評価について